

認定コース及び認定要件		食生態学プロモーターズ「食育教材」				「さかな食育」				取得単位 有効 期限 (年)	
コース	活動内容	参加資格	認定資格	履修単位 基本編 実践編	研修会名	実施日	取得単位 基本編 実践編	研修会名	実施日	取得単位 基本編 実践編	
A	1)地域レベル、政策論、食環境づくりも含めた食育に関する計画・実施・評価のプロセスを学ぶこと 2)B・Cコースの人材を養成することができる	Bコースを履修した正会員及び正会員予定者を含む	正会員	8	総会研修会 食生態学講座 第70回日本栄養改善学会、当フォーラムの研究自由集会	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2 2	総会研修会 食生態学講座 第70回日本栄養改善学会、当フォーラムの研究自由集会	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2 2	4
B	個人や集団の食のニーズに対応する食育の計画・実施・評価のプロセスを学ぶこと 自分や身近な人の食のニーズに対応する食育に関する計画・実施・評価ができる	Cコースを履修した正会員・賛助会員及び正会員予定者を含む	正会員 賛助会員	6	「3・1・2弁当箱法」Bコース研修会(実習又は演習を含むと共に養成講座で講ずる課題を提出(個別指導を含む)する)	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2 2	「さかな丸ごと食育」レベルアップ研修会	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2 2	4
C	自分や身近な人の食のニーズに対応する食育に関する計画・実施・評価ができる	正会員・賛助会員・正会員・賛助会員	正会員 賛助会員	4	「3・1・2弁当箱法」Cコース研修会(演習・実習を含む)	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2	総会研修会 食生態学講座 第70回日本栄養改善学会、当フォーラムの研究自由集会	8月5日 年度内1回実施 9月1日	2 2	4

付記:

- 上記表は、当フォーラムの定款にある事業に基づくものである。
- 当フォーラムが開催する研修会に採られた該当参加資格を満たした場合、認定資格に応じ取得単位が認められる。
- B、Cコースに設けられた「3・1・2弁当箱法」Bコース研修会、Cコース研修会は、当該コース認定のための必修である。
- 「総会研修会」と「食生態学講座」、「日本栄養改善学会当フォーラムの研究自由集会」、「食生態学や食育」に関する研修会のため、できる限り参加すること。
- 取得単位は食育教材ごとに積み上げていくもので、認定された履修単位は重複できない。
- 認定のための申請料は、無料。
- 認定は、食生態学プロモーターズ認定委員会にて審査をおこなう。



# 食にかかわる専門家を支える NPO法人 食生態学実践フォーラム

## ■第20回総会報告 新宿NPO推進協働センター(東京都新宿区) & オンライン 2023.5.21

今年度の総会も感染症予防対策をとり、オンラインと新宿NPO推進協働センターによる開催となりました。会員の皆様には事前に資料を送付し、書面表決をしていただきました。会員65名のうち、当日、会場参加者およびZoomによるオンラインでの参加者を含めて、書面表決出席者数は49名でした。過半数を超え総会として成立いたしました。

冒頭の針谷理事長のあいさつでは、「食生態学プロモーターズ」の制度を見直し実施できたこと、高齢単身男性のフレイル予防を目的としたパンフレット『いくつになっても「食事」が大切です!「3・1・2弁当箱法」であなとも素敵な食生活を』を作成したこと、今年度は学生会員の拡大を図り組織の維持・発展をしていきたいと話されました(次項参照)。

第1号議案 2022年度事業報告、第2号議案 2022年度活動計算書、貸借対照表及び財産目録の説明があり、承認されました。第3号議案 2023年度事業計画・第4号議案 2023年度活動計算書についても承認されました。

また、第5号議案では、定款を変更して「顧問」が位置づけられることが承認されました。顧問には武見ゆかり氏が就任いたしました。さらに、第6号議案により、新しく副理事長として平本福子氏が就任いたしました。

越智直実(フォーラム理事)

## ■第20回総会 理事長あいさつ

皆様、こんにちは。コロナ下で、直接お目にかかる機会が得られませんでしたがお変わりございませんか。本日は、何かと用事が多い日曜日にも関わらず、ご参加いただきありがとうございます。また、日ごろは食生態学実践フォーラムの活動にご協力をいただき、感謝申し上げます。

おかげ様で当フォーラムの定款に定められている5つの事業は、年度計画のとおり実施できました。詳細は1号議案の事業報告で申し上げますが、活動の一例を紹介させていただきます。

2022年度は、直接会員の皆様と共に活動する「3・1・2弁当箱法」と「さかな食育」の食生態学プロモーターズの研修会における支援内容の充実・支援者層の拡大を図りたいと、教材開発事業では、「弁当箱法」を展開して、高齢単身男性のフレイル予防を目的としたパンフレット『いくつになっても「食事」が大切です!「3・1・2弁当箱法」であなとも素敵な食生

活を』の作成に取り組みました。作成において、会員の皆様のご協力、モニタリングを兼ねた研修会が実施できました(『食生態学—実践と研究』16号参照)。参加者からは、内容や構成について、実践に裏打ちされた的確な意見・アドバイスをいただき、パンフレットの充実を図ることができました。また、皆様の熱い思いも実感でき私たちは勇気をいただきました。

2023年度の事業はこの研修会にならない、会員の皆様と共にすすめる活動を模索していきたいと考えております。加えて、委託事業の「さかな丸ごと食育」に関しても、新たな大きな展開があります。後ほどご案内をしますが、足立先生と他の先生方の著作『まるまる みんないただきます!〜かわも うみも やまも さかなも〜』の絵本を基にした総会研修会です。是非、ご参加ください。

さて、活動の内容や方法の検討・充実を図る必要がある一方で、当フォーラムの組織の維持・発展をどうするか、具体的には会員の拡大は引き続き重要な課題です。発足から20年が経ち、当初から支えてくださった会員の皆様からは新陳代謝の意向を伺う機会が増えてきました。10年来、会員拡大を課題に挙げながらも、目に見えた成果を挙げられませんでした。

国際情勢ではコロナ、ロシアの侵略を機に、世界は「歴史的な転換期」と言われ、日本では成長・発展が遂げられなかった30年をどう取り戻すかが問われています。そのような大それたことではありませんが、当フォーラムが継続・発展していくためには、今、重要な時期であるように思われます。今年度は今後につながるように、主に学生会員の拡大をキャンペーンとして真っ向から取り組むつもりです。成果が目に見えるためにも、皆様と共に、課題の検討や解決を図りたいと考えていますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

針谷順子(フォーラム理事長)

## ■新副理事長あいさつ・新役員紹介

副理事長をさせていただくことになりました平本福子です。SDGsに代表されるように、食生態学的なものの見方・考え方が求められる時代になっており、食生態学実践フォーラムの社会的役割が大きくなっています。一方、若い会員の募集や学術的な力量など、運営には課題もあります。今一度、設立の趣旨に立ち戻り、微力ですが頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、役員として、新たに理事を松下佳代氏、監事を荒井今日子氏、衛藤久美氏、顧問を武見ゆかり氏が就任していただくことになりました。 平本福子(フォーラム副理事長)

## ■運営委員の仕事について

NPO 法人食生態学実践フォーラムは、食を支える専門分野の人々やその活動に対し、食生態学や関連分野の研究・実践の成果をふまえて支援する、特定非営利活動法人（NPO）です。2023 年度総会で承認された第 3 号議案（2023 年度事業計画）に沿って事業を行っています。

運営委員は、これらの事業を円滑に実施するために、マネジメント部門、調査・研究事業部門、研修部門、国際協力部門、プログラム・教材開発部門、食育セミナー部門、情報発信部門に別れて、それぞれが担当して活動しております。

今年度は運営委員会を全部で 5 回開催する予定です。必要に応じてメール・オンラインを活用し、常に意見交換をしています。部門ごとに意見を出し、事業計画案に沿いながらすすめています。

マネジメント部門は、各事業が円滑にすすむよう会員の管理や会議、委託事業（「魚」食育普及事業）等を行います。

調査・研究事業部門は、会員の実践・研究力を向上することを目指し、機関誌「食生態学—実践と研究」を発行します。

研修部門は、栄養・食を支える専門家の質を高めるための研修会などを計画し、地域の状況に合わせて実施しています。

国際協力部門は、国際的な視野・視点で、国内外の栄養・食の専門活動を支える活動（情報提供や共有、活動プログラム形成、教材開発等）や、関連する人材養成を目指した活動をしています。

プログラム・教材開発部門は、フォーラムの事業を効果的にすすめるためのプログラム・教材開発や技術支援等を行っています。今年度は「3・1・2 弁当箱法」自給率に特化したリーフレットの制作を予定しています。

食育セミナー部門は、子ども自身がリーダーになる食育セミナーを実施します。今年度は仙台で実施する予定です。

情報発信部門は、食生態学の実践と研究や関連する分野の情報発信（HP、ニューズレターの発行等）を行っています。

今後も充実した活動ができるように運営委員一同頑張りますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

原田由美子（フォーラム理事）

## ■新運営委員紹介

### ○小林雪子さん

今年度より運営委員になりました小林雪子です。

私は病院の栄養士を経験後、約 30 年間、高齢者施設で栄養士をしています。常に「一人ひとりにあった寄り添い」「食を通じた多世代交流」を心掛けて「みんなが明日も元気に明るく暮らせるサポート」がしたいと仕事をしています。

今までは会員として、「3・1・2 弁当箱法」や「さかな丸ごと食育」などフォーラムで学んだことを地域の高齢者や他職種の職員に伝えていました。今年度より運営委員として、職場を超えた「交流」を持たせていただけることをうれしく思います。これからどうぞよろしく願います。

### ○富永暁子さん

栄養士養成短期大学教員として、調理教育に従事して約 30 年になります。大学院の 2 年間、女子栄養大学食生態学研究室に所属していたものの、就職してしばらくは調理科学の研究に関わっていました。そんなある日、栄養関係の学会に参加したときに今回、運営委員になった小林雪子さんと再会し、そこから再び食生態との関わりがはじまりました。この 10 年、一緒に食育カフェ、「3・1・2 弁当箱法」体験セミナー、手づくりみそ講座など、企画運営をしています。

今回、運営委員の 1 人として関わらせていただくことになりましたので、初心に戻り、さまざまなことを学んでいきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

## ■総会研修会報告

### 「まるまる みんないただきます！～かわも うみも やまも さかなも～」に込めてきたこと

東京家政学院大学（東京都千代田区）&オンライン  
2023.8.5

8 月 5 日（土）13：00～15：00 に東京家政学院大学にて、標記タイトルの新作絵本を用い研修会が実施されました。感染症対策を鑑み、ハイブリッド形式で会場 43 名、オンライン 21 名、総計 64 名にご参加いただきました。このうち栄養士養成校の学生 21 名が参加してくださり、はつらつとした会場となりました。

はじめに座長の足立己幸氏（女子栄養大学名誉教授・名古屋学芸大学名誉教授）より、この絵本は全世代の人々が一人残らず「まるまる」つながることができるように、そして子どもから大人へ気づきや感じたことを話せるよう「幼児発信型」という新しい試みの教材で作られたことをお話いただきました。短時間ではありましたが、会場にいる参加者がペアになり読み聞かせをして、互いに気づいたことを話し合う時間を設けました。基調講演は「さかな丸ごと食育」幼児研究プロジェクトメンバー 2 名からの発題でした。

酒井治子氏（東京家政学院大学教授）より保育給食の実態、絵本等を通して食育で目指すこと、この絵本は図鑑的要素があることなどをお話いただきました。安達内美子氏（名古屋学芸大学教授）からは幼児発信型の食育で地域の食がイキイキするよう、絵本のような教材を用いて持続可能な共生のために、それぞれがどのような役割でどんな組織と連携できるか、教えている・教えられているという関係ではなく、それぞれが教える関係性についての提案をいただきました。

実践現場からは現場の管理栄養士として西澤和子氏（同援みどり保育園）より、子どもは大人が気づかない視点や感性があり、それに耳を傾け、話をしたくなる雰囲気づくりやコミュニケーションが大切であること、保護者との関わり方について実例を用いてお話いただきました。宮野由紀氏（「ここから食サポ」代表・女子栄養大学短期大学部非常勤講師）からは、実際に絵本を使っでの取り組みについて、対象の年齢に合わせて絵本の使い方に多様性があること、今後の展開についてお話をいただきました。

最後に座長より、「絵本は言語を超えた交流ができるツール。これからみんな、まるまるつながっていきましょう」と締めくくられました。

私は高齢者施設で働いていますが、この研修を受け、子どもが高齢者に絵本を読み聞かせをし、お互いに気づきを話し合い、みんな笑顔でいる姿が思い浮かびました。それが一日も早く実現できるよう、今後も学びを続けたいと思います。

時間の都合で参加者の皆様からの気づきや質問にお答えする時間を十分に持てなかったため、アンケートに記載いただきました。役立つ情報を得られた、もっと情報交換をしたかったなどの回答をいただきました。今後の展開の参考にして参ります。

小林雪子（フォーラム運営委員）

### ○参加者から

5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことから、今年の総会研修会はハイブリッドでの開催となり、オンラインと対面により行われました。

キーワードは「まるまる」「絵本」「幼児発信型」。ライフステージ別に食育を行う時代から、一人ひとりの生涯を次世代へとつなぎあうライフコースアプローチにて食育を行うことが重要になっていることが共有されました。大人（両親だけでなく祖父母など）を巻き込むための幼児発信型食育を行うためのおすすめ方として、絵本『まるまるみんないただきます！～かわも うみも やまも さかなも～』を通した保育所給食の実態では、給食での魚メニューの現状、魚食を取り巻く課題が報告されました。絵本を通した大人との関わり、地域との連携と SDGs とのつながり、絵本と触れた幼児の反応も報告され、これから実践する子どもの姿を大いに想像することができました。

現地に集い対面での参加を果たし、これまでオンラインで関わってきた食生態学を実践する皆様と顔を合わせながら情報を共有し交流することができました。「あそこでこんな風のできるかな、ワークシートを持ち帰ってもらったら家族で共有してもらえるかな」など新たな実践のためのイマジネーションを膨らませることができました。幼児への働きかけが地域全体の人々へまるまるつながることを目指して行われた総会研修会でした。 辻村明子（フォーラム賛助会員・青森中央短期大学）

この度は、このような貴重な機会に参加させていただき、誠にありがとうございました。研修会では、「食」「絵本」を通して、先生方のお話を伺うことができ、大変勉強になりました。

座長である足立先生より、この絵本のキーワードである「まるまる」についてお話をいただきました。この「まるまる」には全体俯瞰、そして、循環の意味が込められているとお話されており、改めてこの絵本のメッセージ性について考えさせられました。絵本を通して、人もさかなも水も循環していることに子どもが気づき、興味を持ち、周りの友だちや大人と共有していくことで、新たな興味・関心につながる。そして、その興味・関心が無限の可能性を持って広がっていく。これこそが、安達先生がお話されていた、子どもの自由な学びを支え、周りの友

達や大人たちと共通の目標に向かって活動するということなのではないかと考えました。そのためには、酒井先生のお話のように、大人たちも楽しむことが重要で、大人が、子どもの可能性を発揮できる環境を整備する必要があると考えました。

また西澤先生より、現在、保護者が子どもの関わり方に悩んでいる傾向にあると伺いました。子どもたちの「食」は保護者に影響されるため、「絵本」を読み聞かせ合うことで、保護者が「食」の大切さに気づき、コミュニケーションを図るきっかけにもなる可能性があることを学びました。宮野先生や西澤先生のお話から、実際にこの絵本を読んだ子どもの感想や視点は多様であることを感じました。子どもたちの貴重な感受性を伸ばし、より豊かな感性が育まれるよう、私ができることを今一度、熟考したいと思いました。改めまして、このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

田村綾菜（東京家政学院大学大学院 人間生活学研究科栄養学専攻 1 年）

## ■2023 年度の研修計画について

2023 年度の研修計画は、p4 の通りです。日程が未定の研修会がみられますが、決定次第ホームページ等でお知らせいたしますので、ご参加をお待ちしております。

なお、この表は「食生態食育プロモーターズ」の取得単位数を明記しています。今後も、共に食育活動を高めあう仲間が増えることを願っていますので、会員の皆様、「食生態食育プロモーターズ」も視野に入れ、研修会にご参加いただけますようお願いいたします。

高橋千恵子（フォーラム理事）

### ●足立己幸氏編著『共食と孤食』

前理事長 足立己幸氏編著の『共食と孤食』（女子栄養大学出版部）が発刊されました。フォーラムに献本していただきましたので、チラシを同封いたします。

### ●会員募集中！

より多くの仲間との活動をめざして会員を募集しています。活動仲間である賛助会員の拡大はもとより、今年は若い人のニーズを取り入れた活動の輪を広げたいと、学生会員の募集をすすめています。いろいろな特典を設けましたので、学校関係の皆様など、次世代を担う学生さんたちへの声かけをお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。

### ●会費納入のお願い

2023 年度年会費をまだご納入いただいていない方は、お振込をお願いいたします。[振込先]三菱UFJ 銀行・高田馬場支店（普）1517770 特定非営利活動法人食生態学実践フォーラム

### ●事務局からのお知らせ

開室日は、原則として火曜日と金曜日となっています。開室時間は 10：00～17：00 です。事務局不在の場合はホームページの「お問い合わせ」からご連絡ください。